

TODAY'S POINTS

- ①長文を読む際に、未知語に出くわすのは英語学習者の宿命であるが、早い段階で、すぐに辞書に頼らずに、未知語にどう対処するかを身につけておくことはきわめて重要である。(辞書を使わなくてよいということではない。)通常、筆者が、自分の主張点をさまざまな言い方で繰り返し、読者がわかりやすいように話を展開していくものであり、わからない語でも文中にその意味のヒントが隠されていることは多い。
- 語の定義を探すには、**be** 動詞や **mean(s)**、他に **be called** や **can be defined as** (〜と定義づけられる) などが手かかりとなる。
- ②言い換えを表す語句には、**コンマ**や **or**、**in other words**、対比を表す語句には、**on the other hand** や **While ...**、**～** などがある。
- (参考) **paradox** 「理屈に合わないこと、逆説」
immigration 「(外国からの) 移住」
emigration 「(他国への) 移住」

解答

- 1 a way of understanding one thing, for example, "time," in terms of another very different thing, for example, "money."
 2 (例) spending time
 3 (最初) We cannot (最後) touch it
 4 大
 5 the result of
 6 (意味の近い語) similar (意味が反対の語) unique; specific
 7 ④

解説

- 1 語の定義として、最も一般的なのが **be** 動詞や **mean(s)** を使った文である。
 2 第2段落が下線部(2)の例示になっている。save/budget/waste time でも可。
 3 **abstract** 「抽象的な」 1.8 の **on the other hand** (これに対して) を境に、**abstract** と **concrete** の説明に分かれている。
 4 **extremely** 「非常に、極度に」 副詞の大

きな働きとして、他の語を修飾する働きがある。ここは **common** を強調するために使われている。

- 5 **due to** 「～が原因で」 **the result of** 「～の結果」 それぞれの前後にある語に着目したい。このように、わからない語句が出てきても、それが重要な場合、筆者が別の表現で言い換えて繰り返すことが多い。
- 6 最終段落の第1文の **Some** と第4文の **other metaphors** から **some ...**、**others** ～ (…もあれば～もある) という照応関係がつかめれば大きなヒントになる。
- 7 ① 第4段落の第2文に「一面のみ」とある。
 ② 第5段落の第4文に「容易に理解できる」とある。
 ③ 最終段落に「万国共通のものと特定の文化的な経験によるものに分かれる」とある。
 ④ 最終段落の筆者の主張をまとめたもの。

重要語句

- 1.1 **metaphor** 「隠喩」 **Time is money.** (時は金なり) のように、あるものを別のもの置き換えて例えた表現をいう。《全訳》では、わかりやすいように「比喩」としてある。cf. **simile** 「直喩」 **like** や **as** などの語を用いてあるものを別のものと直接比較しながら例えた表現。(例) **a face like a mask** 「仮面のような顔」
- 1.2 **in terms of** 「～の観点から」
 1.4 **think of A as B** 「A を B と見なす」
 1.5 **budget** 「～の予算 [予定] を組む」
 1.6 **as if + 仮定法過去** 「まるで～のように」 時制に注意。
 1.8 **concrete** 「具体的な」 ⇔ **abstract**
 1.10 **common** 「ありふれた」
 1.11 **experience** 「経験」
 1.12 **keep in mind** 「～を肝に銘じておく」 《Further Questions》2 参照。
 1.15 **arrow** 「矢」
 1.16 **not always** 「必ずしも～でない」 部分否定。
 1.18 **industrialized** 「工業化された」
 1.19 **similar** 「似ている」
 1.19 **respect** 「(観) 点」 **in this respect** で「この点で」の意味。
 1.20 **share** 「～を共有する」

- 1.20 **(the) rest** 「残り」 **a rest** は「休息」の意味。
 1.22 **result** 「結果」
 1.24 **universal** 「万国共通の、普通の」
 1.25 **particular** 「特別の」
 1.25 **unique** 「特有な」
 1.26 **specific** 「特別の」 **specific (to each country)** で、**culture** を後ろから修飾していると考えてよい。

構文チェック

- 1.5 **like we can with money**
 ▶ **can with money** は **can spend, save, budget, and waste money** と同意。**with** は「～について、関して」などの関連・対象の意味を表す。
- 1.17~19 **One reason [(why) we have this metaphor] is due to the nature of modern life in industrialized societies.**
 ▶ **we have this metaphor** は **why** が省略された関係副詞節で **One reason** を修飾。
 ▶ **A is due to B** (A は B が理由である) の **A**、**B** がそれぞれ下線部に相当する。

全訳

metaphor (比喩) とは何だろう? そして比喩的に話すとはどういうことだろう? 生活においては一般的に、比喩とは1つのこと、例えば「時間」をまったく別のこと、例えば、「お金」の観点から理解する方法である。

我々は時間をお金と見なすことができるので、時間を費やしたり、節約したりすることについて話すことができる。お金を使う場合と同じく、時間の費やし方の予定を組んだり、それを浪費したりもできる。

なぜ、我々はまるで時間がお金であるかのように時間について考えたり話したりできるのだろうか? 時間はとても抽象的なものである。見ることはできないし、感じることも、匂いをかぐことも、触ることもできない。一方、お金はとても具体的なものである。目に見えるし、運がよければ、所有し、触ってみることもできる。数えることもできる。人が抽象的なものをもっと具体的なものや経験に照らし合わせて理解しようとするのはごく普通のことである。

しかし、時間は、実際はお金でないことを心に留めておくことは大切である。我々が、時間がお金のようなものだとして理解しているとき、時

間の観念の一面のみを理解しているのにすぎないのである。時間を「時は動く」のように考える別の方法もあるのである。これは、「光陰矢のごとし (時は矢のように飛んでいく)」のような文に見いだすことができる。

さらに、人は今までいつも時間をお金と見なしてきたわけでもない。今日でさえ、すべての社会の人がそろって時間をお金と見なしているわけではない。この比喩がある1つの理由は、工業化された社会の現代生活の性質によるのである。日本やほとんどの西洋諸国はこの点において似通っているので、日本人は容易にこの比喩を理解できる。日本人はこの考え方を日本以外の世界の多くの人々と共有しているのだ。

我々が使う比喩の中には、人間の体や見たり感じたり動いたりする人間の能力が持つ性質の結果生まれたものもある。これらの比喩はすべての言語や文化において似通っている。それらは万国共通なのだ。また、特定の文化的な経験から生まれた比喩もある。これらの比喩はある社会に特有のものかもしれない。それらは文化的に特有なのだ。

Further Questions

【解答】

1. in terms of
2. Keep; mind

【解説】

1. **terms** はここでは「観点」の意味だが、この語はさまざまな意味を持つ多義語で、入試に頻出するので、辞書で確認しておくこと。(例) **the first term** 「1学期」 **medical terms** 「医学用語」
2. **keep in mind** は **remember** とほぼ同じ意味。**bear in mind** も同意。語順は **keep ~ in mind** だが、～の部分の後ろに置かれる場合もある。